

空飛ぶクルマ 戦略産業クラスター計画（近畿地域）の概要

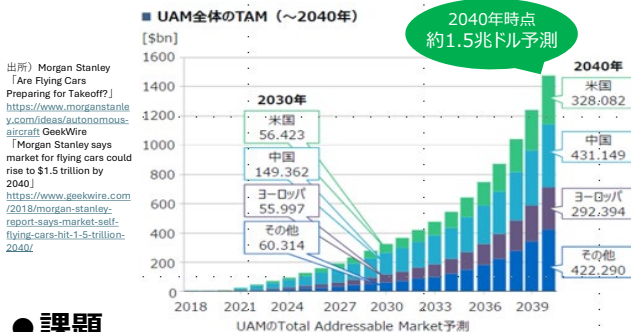
現状と課題

近畿地域のポテンシャル（強み）

- 大阪・関西万博で世界初の複数機体・複数事業者による運航実証を実施（3機体・計81回）。
- 航空機機体・エンジン・装備品等の関連企業に加え、これらのサプライチェーンに連なる中小企業群を含め、100社以上の企業が集積し、整備・運航・人材育成を一体展開可能。

● 現状（その地域・産業を取り巻く将来の見通し） 万博レガシーを活かし、空飛ぶクルマの社会実装を先導

- 2040年空飛ぶクルマの世界市場規模は約1.5兆ドルと予測。開発で先行する欧米に対し、社会実装の加速が急務。
- VP（パーティポート）と一体となった開発が必須となる中、6社ほどが約20地点でVP整備等を検討しており国際的にもでも先行的な取り組みが計画されている。



● 課題

投資・リスク

- 初期段階は需要・事業モデルが未成熟。

人材

- 運航管理・整備・安全管理分野の専門人材が国内で限定的かつ、整備士の高齢化も進行（50歳以上比率：約39%）。

サプライチェーン

- 機体製造・運航・整備を支える部品・素材供給網が未形成であることが課題。

インフラ・分野特有の拠点

- 都心部VP（運航・簡易整備）と大規模整備拠点を組み合わせた一体的連携のための運航事業者・VP運営事業者等の関係主体間における機能連携が課題。

進行中の大規模投資案件と取組

● 核となる大規模投資案件【道筋】

【SkyDrive（愛知県豊田市）】

空飛ぶクルマの機体開発及び型式証明取得に向けた飛行試験等を実施。2028年のサービス開始を目指し、商用運航の前提となる機体供給基盤を確立。

- ※ 投資総額は企業戦略に関する数値であるため非公開とする。
- ※ 中小企業イノベーション創出推進事業（経産省）の補助事業として採択。



画像提供：SkyDrive

● 課題解決に向けた取組【政策手段】

投資資金・リスク

- 国・自治体は実証運航やVPに求められる要件の整理や整備基準の策定等によるVPの整備・普及の促進で実績と需要を創出し、段階的な投資拡大へ。
- 民間事業者は機体開発・運航・VP整備に段階的投資を行う。事業モデルを確立し持続的な投資環境を構築。

人材

- 民間事業者・専門機関等は、連携して教育・訓練体制を整備し、育成機能の拡充を図る。

サプライチェーン

- 民間事業者・地域の製造業は、既存の航空機・自動車・電池等の産業集積を活かし本分野へ参入。規模に応じ量産・供給体制を強化し裾野産業形成、産業基盤確立。

インフラ・分野特有の拠点

- VPに求められる要件の整理や整備基準の策定等により、VPの整備・普及を促進することで、初期投資リスクを低減し投資発現を加速。
- 自治体はVP設置にあたる事業環境整備を行い、さらに民間事業者とともに、都心部VP（大阪港VP等）と大規模整備拠点との連携を前提に、段階的なインフラ整備・運用を推進。実証運航を通じて蓄積されたデータを活用し、VP・整備拠点・運航ネットワークの拡張を図るとともに、機体配置等を一体的に調整し、インフラの効率的活用及び運航の安定性を確保。

目指す姿【目標】

日本初の社会実装を実現し、近畿を空飛ぶクルマ産業化の中核拠点に。

官民設備投資額

- 【KGI】2040年までの累積額：約348億円
- 【KPI】2030年までの累積額：約116億円

2030年の10拠点形成に向けた先行投資を起点に、2040年に向けて民間事業者によるVP整備を段階的に拡大する。

付加価値増加額

- 【KGI】2040年までの累積額：+約1191億円
- 【KPI】2030年までの累積額：+約397億円

2030年の10拠点形成に伴う運航ネットワークの構築と運航規模の拡大により、関連事業の収益基盤を確立する。

人材育成数

- 【KGI】2040年までに累積約1,100人を育成
 - 【KPI】2030年までに累積約400人を育成
- 2040年に向けて民間主導の育成体制を拡充し、産業成長を支える持続的な人材供給基盤を構築する。

パーティポート設置数

- 【KGI】2040年までに累積約30地点整備
 - 【KPI】2030年までに累積約10地点整備
- 2030年までに大阪港VPなどの主要拠点を中心としたVP網を形成し、商用運航の基盤を確立。
2040年に向けて拠点間連携を強化し、面的なネットワーク形成を図る。

大阪港パーティポート



画像提供：大阪メトロ

